

チョッケイさん、テーヤン、ナベさん貴方までも！

昭和30年卒 藤田 武 司



渡辺 洋一 平成21年9月21日病没
遺族 長男 靖男様

私が始めてグライダーに魅せられたのは、小学三年の時だった。

私の住む町には鯖江歩兵第36連隊の駐屯地があり、昭和16年第二次世界大戦の始まる直前に県民総出の大演習会が実施され、その演習の中で小高い岡の上から飛び立ったグライダーに心を奪われたのが始まりであった。その後小学6年の時、県内の小学生を対象にしたグライダーの実習訓練(約2週間)に即応募し、益々その魅力に取り付かれ、将来はパイロットに！の夢も終戦とともに打ち砕かれてしまった。

そして同志社に入学、昭和27年の制空権の復活と同時に同志社航空部の再開、一も二も無く入部、そこで一生の友となる3人とめぐり合った、チョッケイこと「北尾直敬さん」テーヤンこと「吉川禎一さん」、そしてナベさんこと「渡辺洋一さん」である。

特に渡辺さんとは、学部も、卒論も同じと、生涯を通しての第一の友人と思っていたのに突然の死、驚きと同時に深い悲しみに、おもわず、なんで！どうして！と。

彼とは同志社工学部機械科の五機会という同窓会で最近ほとんど毎年会っていた。いつも、彼とは同室であの豪快ないびきには悩まされていても、なぜか彼といると癒される思いがする。昨年

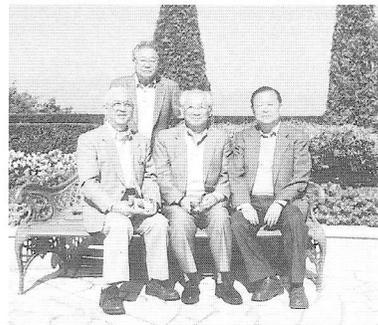
の五機会が宝塚で開催され私も参加の予定をしていたが、同年2月すい臓癌の手術をし、抗癌剤の副作用で断念せざるを得なかった。そのときの友人の話で彼がみんなとの行動が遅れ気味なので「どこか具合がわるいのでは？」と尋ねたそうであるが「いや大丈夫」との返事に深くは尋ねなかったとのことを死後知らされた。

つい最近もテーヤンこと吉川君の仏前に、二人でお参りに行こうと約束していたのに残念でならない。

玉水、高松での合宿、あの灼熱の中汗水を流しながら友情と信頼を培ってくれた、そしていつもお神酒徳利のように一緒にいた仲間がなぜか2年おきに旅立っていく、やり切れない思いで一杯である、平成17年10月3日に北尾直敬さん 平成19年10月9日に吉川禎一さん そして平成21年9月21日に渡辺洋一さん、この追悼文を書きながら涙が止まらない。

私の年での腭臓癌手術後の5年生存率は10%と言われている、もうしばらくしたら彼らに会えるかも知れない。そしてらもう一度、空への憧れとあの青春時代の友情を復活させよう！

心より渡辺君および北尾、吉川両君のご冥福を祈り、あの世での再会を期待しながら追悼の言葉を終える。



(四人の再会)
平成13年10月30日於エクシブ琵琶湖
前列 藤田・吉川・渡辺 後列 北尾

速見との想いで

昭和49年卒 宮原幸春



速見直喜 平成21年6月10日病没
遺族 妻 洋子様

昭和45年、大阪万博の年に入学、今出川キャンパスに展示してあったKa-6に魅せられての入部でした。

福井空港での新人合宿では、早朝起床・日の出前の機体組立て、一日中ランウエイでの機体押し。

真夏の富山空港での合宿は、風呂も毎日入れない宿舎でした。

八坂神社での新人歓迎コンパでの楽しい(?)思い出では、飲めない酒で救急車のお世話になった新人もいました。

祇園祭りの山鉾巡行、時代祭りのアルバイトで

活動資金稼ぎに汗をかきました。

9月、悪夢の福井空港での事故。その後半年間の合宿自粛。半年間の休部の間は、御所の回り、銀閣寺までのランニングばかりの部活(?)。

活動再会後は、加古川、吉井川の滑空場の整備作業と新しい滑空場探しに精を出しました。

何とか初ソロ、飛行機曳航、を乗り切り自家用操縦士の免許を取得できました。

その甲斐が実り、守屋先輩と私での2年ぶりの全国大会への参加を果たした折、他の機体を差し置いてのH-23Cでの高度獲得、一番でのチェックポイント通過。この事を一番喜んでくれたのが速見でした。

現役の時の速見は、マネージャーとして体育会本部での活動にも精を出し、体育会全体でも大活躍してくれました。

昭和49年卒業後は、同期の中でも現役の部員の事を一番に心配して、要所要所で活躍してくれました。お父様の後を継いでの仕事が大変な中、航空部の事を一番心配してくれました。航空部創立50周年記念の行事を開催する為に一番活躍し、見事な行事にしてくれました。

速見は、部の存続が危なくなった時期にも、一番心配し、OBへの根回し、現役への励ましを誰よりも良くやってくれました。

その速見の思いが、同志社航空部、OB、現役の心の中で大きな花となっています。